国語科　夏休み特別講座

単元を貫く言語活動　その3

H26. 8. 22

中学１年　光村図書　少年の日の思い出

1　単元の目標（ゴール）を設定する。

学習指導要領　第１学年　「読むこと」指導事項

ア　文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。
イ　文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などとを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。
ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
エ　文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つこと。
オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。
カ　本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

どの指導事項も大切であり、全部教えたいな。

→　焦点をあてる。（ゴールは、複数より一つの方が生徒には分かりやすい。）

年間の系統性を確認する。

指導事項	にじの見える橋	雪とパイナップル	星の花が降るころに	大人になれなかった弟たちに・・・	少年の日の思い出
ア	○				
イ					
ウ	◎		◎	○	
エ			○		
オ		◎		◎	
カ		○			

◎・・・主目標（ゴール）　　○・・・目標

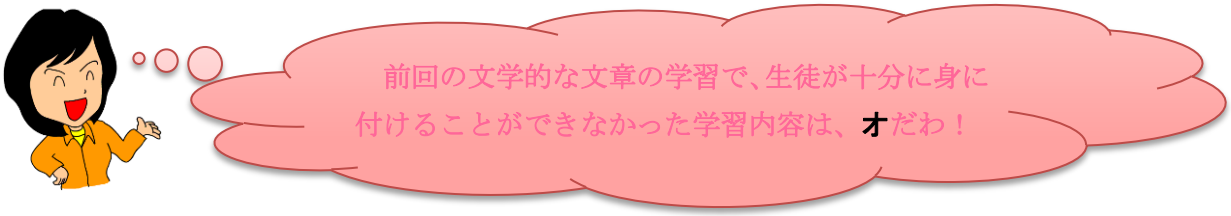
※　例として文学的な文章をあげたが、「読むこと」の指導では、この他に「説明的文章」「詩」「読書・情報」「古典」などでも指導する。
　また、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」との関連指導も考えられるが、関連させることにより**目標達成に効果的**に働くかを考える。

2　単元に関する児童生徒の実態を把握する。

「ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」

「オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」

この単元では、読むことの目標を**ウ**と**オ**に絞り、主目標を選ぶ。



3　言語活動を選ぶ。

「オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」という力を身に付けさせるのに最適な言語活動を選ぶ。

学習指導要領に書かれている**言語活動例**

ア　様々な種類の文章を音読したり朗読したりする言語活動
イ　文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読む言語活動
ウ　課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する言語活動

↓

言語活動が抽象的なので、さらに具体的にする。
例なのでアイウにとらわれずに言語活動を考える。

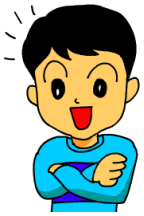
音読する。朗読する。新聞を作る。ポスターを作る。感想文を書く。紙芝居を作る。パンフレットを作る。紹介文を書く。レポートを書く。ポップを作る。etc

教材の特質を踏まえつつ、生徒が「やってみたい」「おもしろそうだ」という興味関心を示す言語活動を選択する。

↓

言語活動の特質、生徒のレディネス等を考慮する。

「ポップを作る」に決定する。



※　ポップとは

紙を広告媒体としてその上に商品名、キャッチコピーや説明文、イラストだけを手描きしたものであり、数ある広告媒体の中でも単純なツールの一つ

4　単元の展開を構想する。

第一次(1)	第　二　次(4)	第三次(2)
見通しをもつ	教材文を学習する。	ポップをつくる

ポップに表現する。（単元を貫く言語活動）　ゴール

単元の目標（ゴール）は　自分のものの見方や考え方をポップに表現する。

単元構成　ここに注意！

第一次　見通しをもつ段階で、この単元でのゴールは「自分のものの見方や考え方をポップに表現する。」ということを生徒に示す。その際、教師が作成した実物のポップを提示すると効果的である。

第二次　「少年の日の思い出」の教材の一番心に残ったところを、「自分のものの見方や考え方」としてポップに表現する。ということを４時間、常に生徒に意識させることが大切。（単元を貫く）

さらに、指導事項ウ「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」もあわせて学習し、「お客さんが読みたくなるようなポップになる。」ことを指導することにより、教材文を学習する必然性が高まる。

第三次　ポップをつくることはあくまでも手段であって、大切なのは**「自分のものの見方や考え方」**を伝えることが目的であることを生徒に十分に理解させる。そのため、「見た目がきれいなポップ」をつくることではなく**「自分の作品に対する見方、考え方が書いてある」**→「他者が読みたくなる」ことを評価の観点に示すことが大切となる。

二次と三次の関連づけを図る単元構成例

<table>
<tr><th>第一次</th><th>第　二　次</th><th>第三次</th></tr>
<tr><td rowspan="2">見通しをもつ</td><td>教材文を学習する。</td><td rowspan="2">ポップにまとめる。</td></tr>
<tr><td>教科書の読みをポップに表現しまとめる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>第一次</th><th>第　二　次　　第　三　次</th></tr>
<tr><td>見通しをもつ</td><td>教材文を学習する。
教科書の読みをポップに表現しまとめる。</td></tr>
</table>

単元構成の工夫として、教材文の学習とその活用を交互に行う「ＡＢ方式」など様々な実践が行われています。

「今、目指したい授業」に「少年の日の思い出」の指導案が掲載されていますので、そちらも参考にしてください。

大切なのは・・・

並行読書を取り入れて、「少年の日の思い出」以外の本のポップを作る。単元を貫く言語活動を「ポップ」以外のものにする。など、まだまだ様々な方法が考えられます。

一人一人の教師が、**「単元を貫く言語活動」**を意識して、授業改善に努めていきましょう。